

卒業式 式辞

本格的な春の訪れが、そこかしこで感じられる季節となってまいりました。本日、ここに令和二年度卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

本学での学びを終え、本日ここに、晴れて卒業を迎えられた皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、お祝い申し上げます。

ただいま、大学二六三人、短期大学部一六二人、計四二五人の卒業生に「卒業証書・学位記」を授与いたしました。四年間、三年間、二年間、学びの期間はさまざまですが、この「卒業証書・学位記」は、皆さんがそれぞれの学部・学科で勉学に励み、兵庫大学、兵庫大学短期大学部での学びを終えられた証です。

そして今日は、多くの人に支えられ、見守られた学生生活を終え、これから、社会人としての歩みが始まるという節目の日でもあります。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、今まで経験したこともないような事態となりました。本学においても昨春の緊急事態宣言をきっかけに、大学構内への入構制限を行い、オンラインによる授業や、課外活動の制限・自粛など、大きな変化がありました。環境の変化に戸惑い・不安を抱えることもあったと思います。皆さんはこれまでとは異なる環境の中で、貴重な学生生活の最後の年を過ごされました。大きな変化に遭いながらも、その中で皆さんが感じられた思いや、新しい生活様式での毎日は全てが初めてのことではなかったかと思います。

現代の社会では、今回のような感染症のみならず、天災、経済や環境に関わる問題など、私たちが想像できないような未曾有の出来事に対し、皆で知恵を出し合って、世界を良い方向へと導いていくことが求められています。

二〇一五年九月に国連サミットで採択された SDGs (Sustainable Development Goals) では、二〇三〇年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標が掲げられており、その中に次のような言葉があります。それは、「leave no one behind (誰一人取り残さない)」です。

自分だけが良ければよいという考え方は、他者を脅かし不幸にするだけでなく、巡り巡って自分自身を危うくすることに繋がっていきます。他者をおもんばかり、社会に目を向け行動することは、結果的には自分自身に幸せをもたらすのです。そのような社会では、孤立し、取り残される人は少なくなるはずで、私たちはそうした社会を目指していかなければなりません。SDGs にはこのような理念が含まれていると思います。

一人ひとりが有している知識や技術、思考が人と人の繋がりの中で融合し、さらに良いものになっていくことを、皆さんは本学での学びの中で、経験をしてこられたと思います。これから社会人としての歩みを進めていかれる中でも、皆さんは、たくさんの人々と出会い、多くのことを学び、誰かと共に何かを生み出していく。それがささやかなものであったとしても、社会を良き方向へいざなう一助であってほしいと思います。そして、人として共感する心、人への慈しみの心、思いやりに溢れた心を大切に、人々と喜びを分かち合う、豊かな人生を歩んでいただきたい、そう願っています。

最後に、卒業していく皆さんに、もう一つお伝えしておきたいことがあります。これから皆さんが歩む長い人生は、無限の可能性を秘めています。ただ、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁にぶつかることもあるでしょう。

そのような時には、本学での学びや経験を基礎としながら、さらに学び、柔軟な思考を巡らせ、乗り越えていただきたいと思います。

日々の生活の中から、さまざまなことを見て、感じて聴き入って考える、その姿勢が、皆さんの個性、智慧となり、問題を解決し、皆さんの成長に繋がっていくはずです。

それでもなお、壁を乗り越えられそうにない時は、どうか私たちを訪ねてください。もし皆さんが、これからの人生の中で孤独に苛まれるようなことがあったとしても、決して一人ではないことを思い出してください。私たちは常にあなた達と共にあります。

それでは、卒業生の皆さんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、令和二年度卒業式の式辞とします。

令和三年三月二十三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真